

「お茶フクロウ (5)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

大学正門のイチョウ並木でフクロウの声がしたからには、構内の他の樹木でも必ず休んだはずである。その下には、フクロウが吐きだしたペレットが落ちてい

る可能性がある。私が北軽井沢でフクロウのペレットを採取したのは、カラマツ・アカマツ・ミズナラ・シラカバなど、針葉樹と広葉樹が混在する、混交林の中だった。いくつかの樹の下に集中して落ちていたので、「お気に入り」の樹と枝があるのだろう。



写真は、北軽井沢の混交林で撮影したフクロウである。フクロウは当然夜行性なので、狩りも夜間に行うことが多い。ヒナを育てている期間は、昼でも狩りをすることもあるが、昼間はこのように枝に止まって、眼を細めて休んでいることが多い。これはカラマツの枝だ。かなり至近距離で撮影したのだが、逃げる様子もなく、そのままかなりの時間じっとしていた。翌日この樹の下を調べたら、3~4個のペレットが落ちていた。残念ながら、落とす一瞬は見たことがない。



大学構内にも、かなりの巨木がある。これは西門の近くの台地の縁にある、クスノキの大木だ。この樹の下も子どもたちと探してみたが、やはり見つからなかった。



このようなちょっとした草っ原もある。この場所がかつて古い温室があって、近年は廃墟と化していた。樹木も多く鬱蒼として、薄暗い場所だったのだが、今は明るい草原になっている。民家の屋根が低く見えるのは、ここが段丘崖の上に(武蔵野台地の縁)に位置しているからだ。奥にはホオノキの大木があり、屋根の上を飛んできたフクロウが、一旦休むのにちょうど良さそうな場所だ。